保管用
よくお読みください
保証書別途

# 取扱説明書

スーパーモジュール車いす

## KA900 シリーズ

● 目 次 ●


| | |
|---|---|
| 安全に関するご注意 | 1 |
| 1.同梱部品の確認 | 7 |
| 2.安全ラベル | 7 |
| 3.各部名称 | 8 |
| 4.お使いになる前に | 9 |
| 5.車いすの拡げ方･たたみ方 | 11 |
| 6.安全ベルトの取り扱い方法 | 14 |
| 7.ブレーキの取り扱い方法 | 15 |
| 8.肘掛けの取り扱い方法 | 16 |
| 9.脚部の取り扱い方法 | 18 |
| 10.ステップ板(ﾌｯﾄｻﾎﾟｰﾄ)の調整方法 | 20 |
| 11.背シートの調整方法 | 21 |
| 12.ヘッドサポートの調整方法 | 22 |
| 13.転倒防止バーの取り付け方法 | 22 |
| 14.その他各部の調整 | 23 |
| 15.お手入れの方法 | 24 |
| 16.保管についてのお願い | 24 |
| 17.車いすの保守･点検 | 25 |
| 18.車いすの主な乗り方 | 27 |
| 19.仕様 | 29 |
| 20.製造記録 | 30 |
| 21.保証 | 31 |


このたびはカワムラサイクルの車いすをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。この取扱説明書は、商品を安全にご使用いただくために必要な注意事項や正しい使用方法が記載されています。

取扱説明書は適宜更新しております。最新版を弊社ホームページからダウンロードしていただけます（http://www.kawamura-cycle.co.jp/product/manual.htm）。

**※ご使用になる前に必ずお読みください。また、ご利用いただく際には必ず携帯していただくか、必要なときにいつでもご覧になれるところへ大切に保管してください。**


KAWAMURA 株式会社カワムラサイクル

# 安全に関するご注意

※ご使用になる前に必ずお読みください。

## 安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

[表示マークの説明]

※正しい取り扱いに関する必要事項を標示(シンボルマーク)で表しています。

| | |
|---|---|
| ⚠ 警 告 | 取り扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。 |
| ⚠ 注 意 | 取り扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。 |

| | |
|---|---|
| 禁 止 | してはいけないことを示しています。 |
| 必ず守る | 必ずしなければならないことを示しています。 |

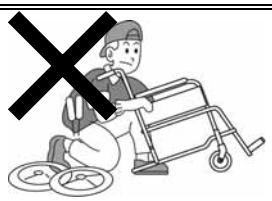
### ⚠ 警 告

取り扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

**禁止**

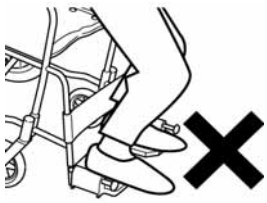
**●勝手に改造・分解しないでください。**

強度や耐久性が低下して危険です。また、事故になる恐れがありますので絶対に改造・分解しないでください。
故意にシートを切断する等の加工を絶対にしないでください。シートを破断したり、加工した状態でご使用されますとフレームが歪んだり、破断する原因となります。また、シート取付ネジが歪んだり、欠落すると事故の原因になります。



**●車いすに乗り降りの際は、決してステップ板の上に足を乗せないでください。**

絶対にステップ板(フットサポート)の上に乗って車いすに乗り込んだり、降りられるときに立ち上がらないでください。車いすごと転倒し危険です。

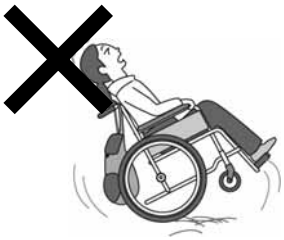


**●車いすを火気に近付けないでください。**

シート部が燃えたり、熱くなりプラスチック等が変形したり、熱くなった金属部分でやけどするなど、危険です。

**●ポケットには１kg 以上の重いものを入れないでください。**

過度の荷物はバランスを崩し危険です。また、押手に荷物を吊り下げますとバランスを崩し危険です。絶対に避けてください。

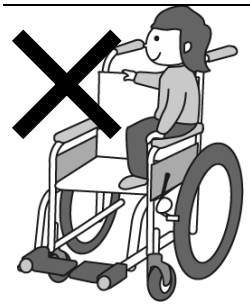


## ⚠ 警 告

取り扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

禁止

**●座シート以外の部分に腰掛けないでください。**



**●介助者は、絶対に車いすに乗って介助しないでください。**

**●複数の人数で乗らないでください。**

この車いすは一人用です。破損･事故の原因になります。

**●急な坂道(勾配４度以上)では使用しないでください。**

**●押手に寄りかかったり、歩行補助として使用しないでください。**

**●説明書に記載されている調整箇所以外の調整を行わないでください。**

事故の原因となります。調整が必要な場合はご購入の販売店にご相談ください。

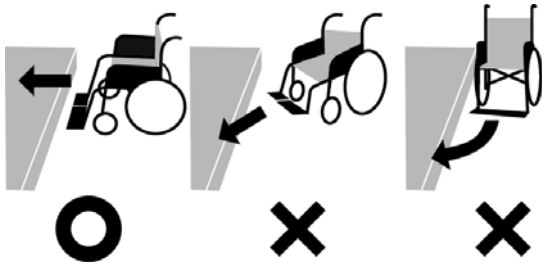
**●大きな段差を無理に乗り越えようとしないでください。**

**●段差の前では一旦停止してティッピングレバーを利用して乗り越えてください。**

決して勢いをつけて乗り越えないでください。大変危険です。
また、フレーム及びキャスタ車輪等の損傷を受けます。

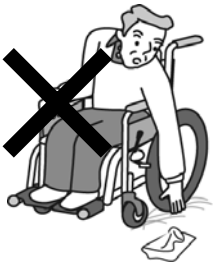
**●発進するときや段差を乗越えるときには、キャスタのタイヤが真っ直ぐになっていることを確認してから走行してください。**

斜めに進入したり、キャスタタイヤが斜めになった状態で発進すると段差を乗越えられなくなったり、キャスタが破損して事故の原因となる恐れがあり大変危険です。



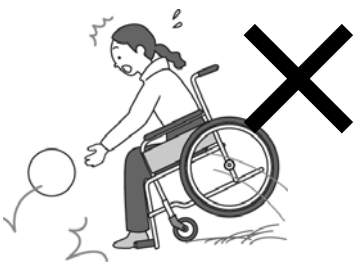
**●車いすでの走行中は、身体を乗り出さないでください。**

車いすが不安定になり危険です。



**●車いすに座ったまま強い前傾姿勢をとらないでください。**

車いすごと転倒し危険です。車いすに座ったまま前方の地面に置いてある物を拾うなど、車いすごと転倒し大変危険です。



**●車いす以外の目的に使用しないでください。**

物品運搬･踏み台などに使用しないでください。
車いすの上に立ち上がらないでください。

## ⚠ 警 告

取り扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

必ず守る

**●車いすを持ち上げる場合、駐車ブレーキをかけ固定されているパイプをしっかり支えてください。**

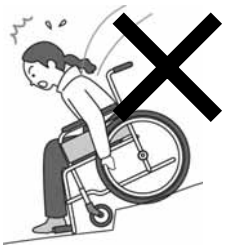
※肘掛けを持たないでください。
※脚部をもたないでくさい。
※背シートを持たないでください。これらの箇所を持ち上げると、脚部や肘掛け等が車いすから外れるなど、大変危険です。

**※利用者が乗ったまま持ち上げる場合は、シートベルトをしっかりと締め、３人以上でフレーム前下部とティッピングレバーを持ってしっかりと支えてください。利用者の身体の一部を持たないでください。**

**●道路通行の際は、必ず右側通行してください。また、歩道を通行してください。**

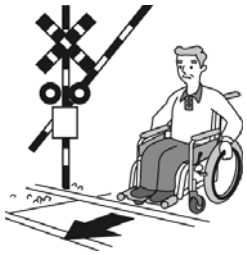
**●身体が前のめりにならないよう十分ご注意ください。**

段差や凸凹などのある路面等を走行するときは、特にご注意ください。



**●踏み切りの横断やエレベータの乗り降りの際は、車輪をレールに対して直角にして走行してください。**

斜めの角度で進入するとレールの溝にはまって危険です。必ず介助者と一緒にわたってください。



**●坂道の上り下りや段差のある場所では、必ず介助者に支えてもらって行ってください。**

坂道を上るときは前向きで、下るときは後ろ向きで走行してください。
坂道を前向きで下ると乗っている人が前へずり落ちる、前へ倒れる、スピードが出やすいなど、非常に不安定になり危険です。また、介助者がバランスを失った時も危険です。

[上り坂]

[下り坂]

**●傾斜地･坂道での走行は特にご注意ください。**

・傾斜地や坂道では、車いすが予想外の方向に進む、スピードが出やすいなど大変危険です。
・車いすからずり落ちる、前へ倒れるなど、非常に不安定になり危険です。

**●車いすに乗り降りする際、一時停止する際は、必ず駐車ブレーキをかけて車いすが固定されていることを確認してください。**

## ⚠ 警告

取り扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

必ず守る

**●走行中は、足を必ずステップ板の上に乗せてください。**

足を地面に付けたままで走行したり、ステップ板から外して走行すると、ステップ板と地面の間に足が巻き込まれてケガをする恐れがあり、危険です。
（足でこいで操作する場合は例外です。）

**●車いすの機能と操作をよく理解し、慣れた状態で介助を行ってください。**

**●部品等が破損したり損傷がある場合は、すぐに部品を交換してください。**

**●次のような場所では走行を避けてください。**

**・交通量の多い道路　崖の近く　・砂利道　・凹凸のある道**
**・ぬかるみ　・雪道　・凍結路　・防止柵のない側溝や路肩付近など**
**・崖　・川土手　・海岸防波堤上　・その他危険な場所**

**●次のような場合は走行を避けてください。**

**・夜間　・雨天　・濃霧　・強風　・その他危険が予想される場合**

夜間は側溝や障害物などが発見しにくくなり危険です。
雨天は路面が滑りやすくなり危険です。

**●次のような場所では厳重な注意が必要です。**

介助者が付き添い、利用者の身体を支えるなど注意しながらご使用ください。

**・狭い道　・踏み切り　・横断歩道　・駅のホーム　・エレベーター**
**・車いす対応の動く歩道　・車いす対応の福祉車両**
**・その他危険が予想される場所**

**●介助用として使用する場合、シートベルトを必ず装着してください。**

段差などで不意に衝撃などを受けると身体が投げ出されることがあり危険です。また、安全ベルトを外したまま移動するとベルトが車輪にからまるなど危険です。

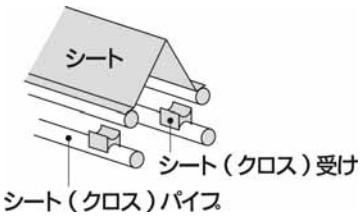
## ⚠ 注意

取り扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

禁止

**●シート（クロス）パイプがシート（クロス）受けに収まっている事を確認してご使用ください。**

万が一、シート（クロス）受けから浮いた状態でご使用されますと、フレームが歪んだり、故障の原因となり事故につながる恐れがあります。




**●車いすを投げたり落としたり、衝撃を加えないでください。**

**●跳ね上げ部、背折れ部、ブレーキなどの操作レバー荷物などを掛けないでください。**

**●小さな子供に使用させたり遊ばせたりしないでください。**

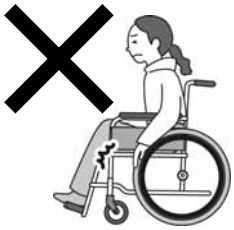
## ⚠ 注 意

取り扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

禁止

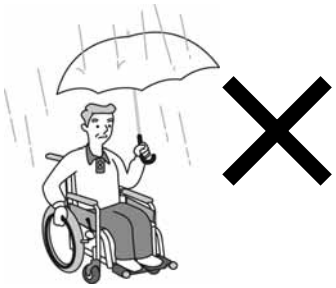
**●タイヤをもって車輪を操作しないでください。**

駐車ブレーキで指をはさむなど、大変危険です。



**●走行する際には片手で操作しないでください。**

傘をさしながら、また片手に荷物を持ちながらの片手操作ではバランスを崩す原因にもなります。両手で操作し、バランスを保ちながらゆっくりと走行してください。



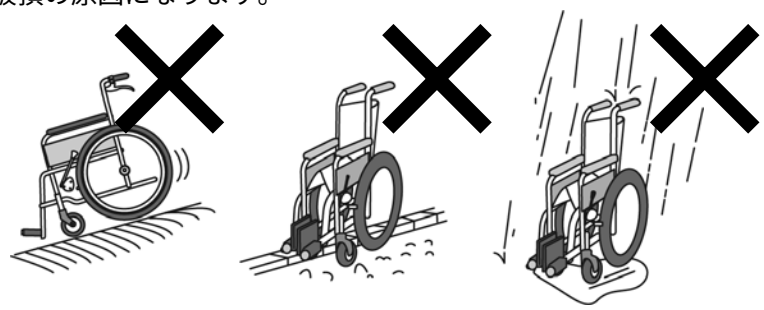
**●駐車ブレーキのレバーは作動方向以外に力を加えないでください。**

また、必要以上に力を加えないでください。ブレーキが変形・破損する恐れがあります。

**●下記のようなところに車いすや部品を放置しないでください。**

- **車道に近いところ**
- **人通りのあるところ**
- **路面に段差や凸凹のあるところ**
- **湿気の多いところ**
- **海沿いの屋外(潮風の当たるところ)**
- **雨、風のあたる場所**
- **ほこりの多い場所**
- **坂道**
- **非常口、消火器、消火栓の前**
- **暑い日や寒い日の戸外**
- **直射日光の当たる場所（車内も含む）**
- **ストーブなど火気を使用し高温になる場所**
- **子供がいたずらをする恐れのある場所**

事故やサビ・破損の原因になります。



**●後車輪の空気圧が少なかったり故障した状態で使用しないでください。**

ブレーキの効きが悪くなったり、思わぬ事故につながるなど、危険です。

**●後車輪の空気圧を適正に保ってください。**

適正空気圧は、タイヤの側面に記載されています。(目安として、タイヤを手で押してもやや硬い(軟式野球ボール程度の硬さ)に空気を入れてください。)
空気圧が高すぎるとチューブが破裂する危険があります。

**●肘掛けに腕を載せたまま、肘掛けを跳ね上げないでください。**

## ⚠注 意

取り扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

必ず守る

**●ご使用前には各部を点検してください。**

車いすは“動くもの”ですから、長時間のご使用等により劣化が生じます。
**ご使用前の点検を励行し、異常が見つかったら直ちにご使用を中止してください。**

**●安定した姿勢で座ってください。**

座面深くに座ってください。左右にかたよらずに座ってください。
また、介助者は、ご利用者が安定した姿勢で座っていることを確認してください。

**●回転している車輪に指を挟み込まないように注意してください。**

**●車いすにバリなどがないかを確認してください。**

衝突等により金属･樹脂部にバリなどが発生することがあります。ケガの原因となりますので、十分ご注意ください。

**●認知症(痴呆症)の方がご使用される場合は、必ず介助者が付き添ってください。**

車いすのシート、部品等を飲み込むことや一度かけた駐車ブレーキを不意に解除されることがありますので、十分ご注意ください。

**●駐車ブレーキは必ず手で操作してください。**

足などで操作するとブレーキが破損する恐れがあります。

**●介助者の方は、利用者が車いすに安全に座れていることを確認してから操作してください。**

搭乗者の身体の一部または衣服がタイヤ、スポーク、キャスタ及び地面、建物、通行者に触れたりはさまったりしないようご注意ください。

**●靴を履かずに足をステップ板に乗せてご使用いただく場合は十分ご注意ください。**

壁や柱で足をケガしたり、足がステップ板から落ちて骨折するなど、大変危険です。

**●車いすの乗り降りや移乗など車いすが不安定になりやすいときには、必ず２名以上の介助者が付き添ってください。**

**●最大体重を守ってご使用ください。**

車いすに表示されている「使用者最大体重」は、積載物も含んだ重さです。

**●皮膚の弱い方のご利用の際には、十分ご注意ください。**

**●車いすにバリなどがないかを確認してください。**

衝突等により金属･樹脂部にバリなどが発生することがあります。ケガの原因となりますので、十分ご注意ください。

この取扱説明書は、イラストや写真が一部実車と異なる場合があります。

# [製品の特徴・使用目的]

この製品は、手動式車いすです。
これに搭乗しての移動と、休息を目的としています。
この車いすは一人用です。

# 1.同梱部品の確認

本製品には、以下の部品が同梱されていますので確認してください。

| | | | |
|---|---|---|---|
| ・工具 (13mm スパナ) | 1個 | ・スーパーヘッド | 1個 |
| (4mm 六角レンチ) | 1個 | ・背クッション | 1個 |
| (5mm 六角レンチ) | 1個 | ・座クッション | 1個 |
| (6mm 六角レンチ) | 1個 | ・オリジナルポーチ | 1 個 |
| ・取扱説明書 | 一式 | ・背ベース用延長ベルト | 1 本 |
| ・保証書はがき | 1 枚 | | |
| ・座奥行き調整パイプ | 2 個 | | |

# 2.安全ラベル

・取扱上の重要な事項を記載した安全ラベルが貼ってあります。
・安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
・ラベルを汚したり、はがしたりしないでください。

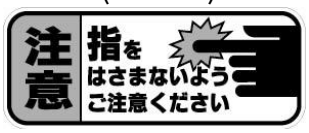
左側板（内側）

**⚠ 警 告** 転倒してケガをするおそれがあります

●取扱説明書はよく読み、必ず携帯してください。
●乗り降りの際には、必ずステップ板を跳ね上げて、駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認してください。
●地面に置いてある物を拾う等、強い前傾姿勢を取らないでください。
●段差などを越える場合、前輪を浮かせ過ぎないでください。
●最大積載重量以上の重量で使用しないでください。
●アームサポートが可動式の場合は固定されていることを確認してください。
●フットサポートが可動式の場合は固定されていることを確認してください。
●駆動輪やキャスタが外れないことを確認してください。
●座面以外に腰掛けないでください。

肘掛け高さ調節部

シート(クロス)パイプ付近

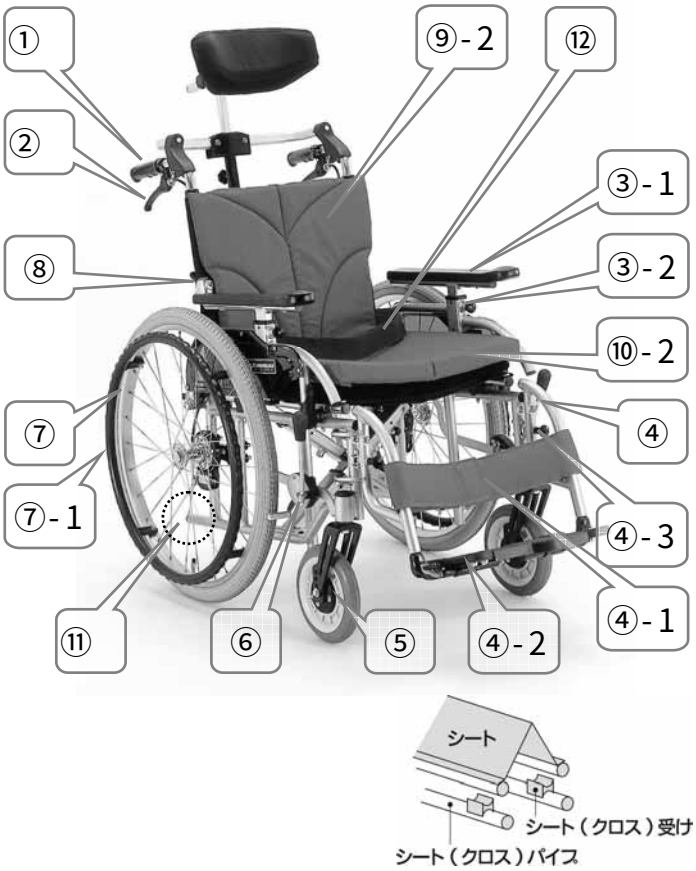


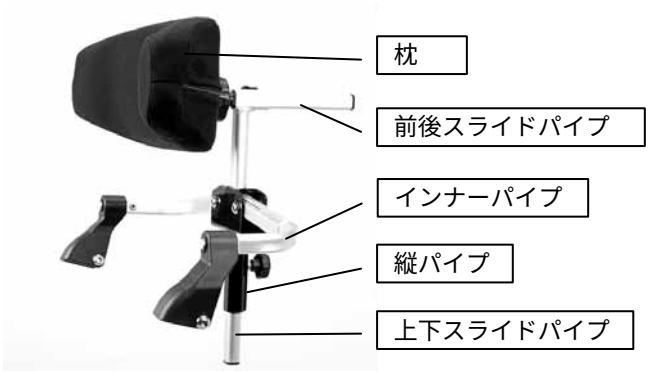
右側板（内側）

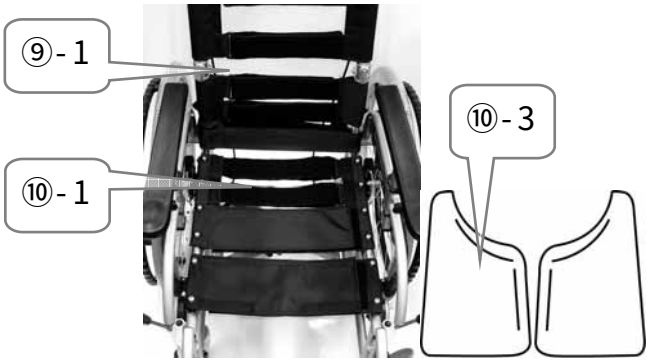
**⚠ 注 意** ケガをするおそれがあります

●可動部分を持って持ち上げないでください。
●認知症（痴呆症）の方が使用される場合は、必ず介助者が付き添い、安全を確認し、ご利用ください。
●座面が確実に固定されていることを確認してください。
●手や衣服をはさまないようにご注意ください。

# 3.各部名称







| | |
|---|---|
| ① 押手(押しハンドルグリップ) | 介助者が車いすを移動させる際に握る部分です。 |
| ② 介助ブレーキレバー | 介助者がブレーキをかけるときに握ってください。 |
| ③ 肘掛け（アームサポート） | 移乗しやすくなるよう跳ね上げができ、肘掛けの高さ調整もできます。 |
| ③-1 肘当てパッド | ご利用者が肘を乗せる場所です。 |
| ③-2 跳ね上げレバー | 肘掛け（アームサポート）を跳ね上げる際に使います。 |
| ④ 脚部（フットレッグサポート） | 足を支持する装置です。 |
| ④-1 足ベルト（レッグサポート） | 足が後ろに落ちないように支えます。 |
| ④-2 ステップ板(フットサポート) | 足をのせる板です。 |
| ④-3 スイングアウトレバー | フットサポート（脚部）をスイングアウトする際、取り外す際に使います。 |
| ⑤ 前輪（キャスタ） | 自在に方向転換できる小車輪です。 |
| ⑥ 駐車ブレーキ | 車いすを駐車する時に使用します。 |
| ⑦ 後車輪 | 駆動輪です。（介助用の場合は主車輪です。） |
| ⑦-1 ハンドリム | 手をかけて後車輪を回します（自走用のみ）。 |
| ⑧ 背折れ金具 | 車いすを折りたたむ際、さらにコンパクトになります。 |
| ⑨ 背シート | 背部が寄りかかる場所です。 |
| ⑨-1 背ベースシート | 背の張り調整をし、背クッションを取り付けるシートです。 |
| ⑨-2 背クッション | 背ベースシートに取り付けるクッションです。着脱可能で、ポケット付です。 |
| ⑩ 座シート | 座る場所です。 |
| ⑩-1 座ベースシート | 座の張り調整をし、座クッションを取り付ける場所です。 |
| ⑩-2 座クッション | 座ベースシートに取り付けるクッションで、着脱可能です。 |
| ⑩-3 アンカーパッド | 座骨が前にずれるのを防ぎます。座ベースシートに貼り付けて使用します。 |
| ⑪ ティッピングレバー | 段差を乗り越える際、ここを踏んで前輪を浮かせます。 |
| ⑫ シートベルト | 体がずり落ちないよう腰を安定させるベルトです。 |
| ⑬ ヘッドサポート | 頭部が寄りかかる場所です。 |

# 4.お使いになる前に

**車いすを使用する前に、安全のため各部の点検を行ってください。**

## ＜装着品の確認＞

・背ベースシート、座ベースシートは、しっかりと固定されていますか？
・背クッション、座クッションは、しっかりと取付けられていますか？
・背折れ金具は、しっかりと固定されていますか？
・肘掛けは、しっかりと固定されていますか？
・クロスは、しっかりと受けに収まっていますか？
・脚部は、しっかりと取付けられていますか？
・足ベルトは、しっかりと取付けられていますか？
・ステップ板は、しっかりと取付けられていますか？

## ＜後車輪の確認＞

・タイヤに空気が十分入っていますか？（タイヤを指で押しても容易にへこまないか）
・バルブが緩んでいませんか？
・タイヤにキズがありませんか？異物が刺さっていませんか？
・タイヤの溝が十分残っていますか？変形していませんか？

## ＜ブレーキの確認＞

・駐車ブレーキ（及び制動用ブレーキ）が正しく作動しますか？
・ブレーキをかけた状態で後車輪が回転しませんか？

## ＜肘掛け＞

・スムーズに（上下）作動できますか？
・しっかりと固定できますか？
・キズや亀裂等はありませんか？

## ＜脚部＞

・スムーズにスイングアウト、脱着できますか？
・しっかりと固定できますか？
・ステップ板がパタパタしていませんか？
・キズや亀裂等はありませんか？

## ＜全体的に＞

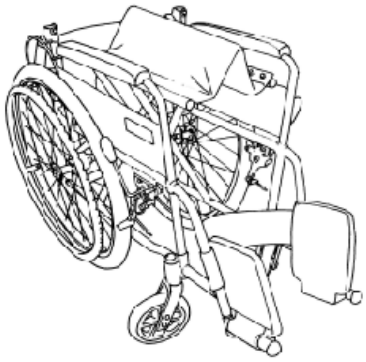
・ガタつきはありませんか？
・まっすぐに走りますか？
・各部ボルトやナットが緩んでいませんか？
・背折れ金具がしっかりと固定されていますか？
・背クッション、座クッションがしっかりと取り付けられていますか？
・ワイヤーが部品等に引っかかっていませんか？

## ＜介助者へ＞

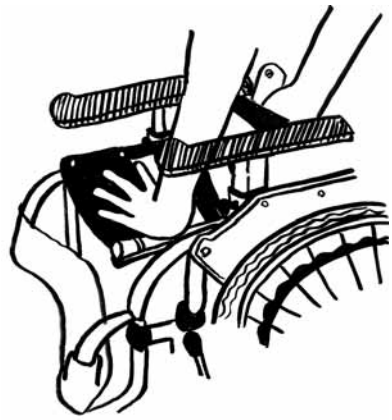
・長期間の使用や使用頻度によっては、ガスダンパーやキャスタ車輪、フットサポート、アームサポート等の劣化がすすむことがあります。使用前点検を励行してください。異常がある場合は、使用を中止してください。
・次のような場所では必ず介助者が付き添い、利用者の身体を支えるなど転倒防止に努めてください。
    ・急な坂道
    ・凹凸や段差のある場所
    ・踏み切りの横断、エレベーターの乗り降りなどの溝のある場所
    ・その他危険が考えられる場所
・車いすに載って介助しないでください。
・利用者の身体の一部（手や足）及び衣服が、タイヤに触れたり挟まったりしないよう注意してください。
・利用者の身体の一部（手や足）及び衣服が、建物、通行者及び地面に触れたり挟まったりしないように注意してください。
・車いすに重い荷物を載せたり、押手に提げたりしないでください。

# 5.車いすの拡げ方･たたみ方

## 車いすの拡げ方



①駐車ブレーキをかけ、車いすの後方か前方に立ち、左右の肘掛けを持って両側に軽く拡げます。

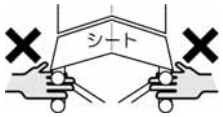


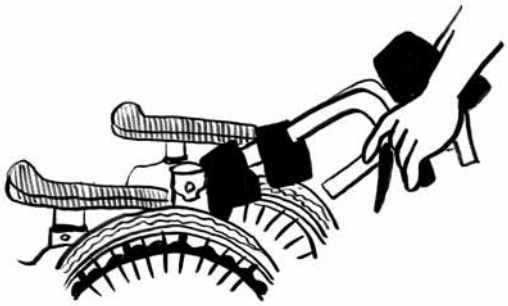
②片方のフレームを持ち上げて車輪を少し地面から浮かせ、シート(クロス)パイプ部分を上から手で少し押し下げます。

**⚠注意**

**シート(クロス)パイプの横や下に手や指を置かないでください。**

挟まってケガをする恐れがあります。



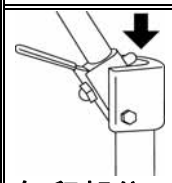



ロックピンが完全にロックされている事を確認してください。

③車いすの押手(手押しハンドルグリップ)部分を持ち、上方（矢印の方向）へ引き起こすように持ち上げてください。

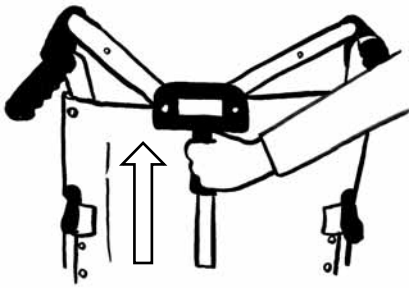
※このとき、駐車ブレーキを使用するか、片側の手で車いすが動かないように支えていてください。

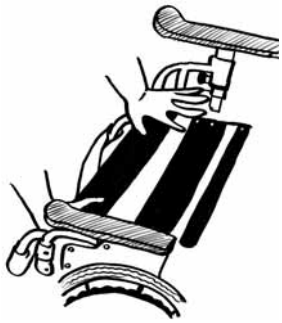
**⚠注意**



**矢印部分に手や指を置かないでください。**

挟まってケガをする恐れがあります。





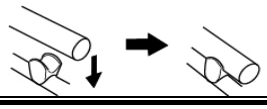
④ヘッドサポートの縦パイプが背パイプと平行になる位置までヘッドサポートを引き上げます。

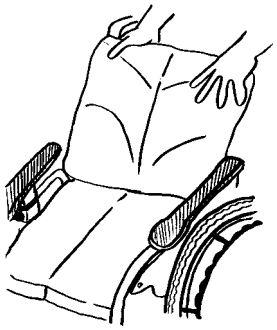
⑤前方からシート(クロス)パイプを押さえ、シート(クロス)パイプ受けにシート(クロス)パイプがしっかりと入るようにします。

**⚠注意**

**背ベースシートが張りすぎていないことを確認し、シート(クロス)パイプをシート受けに確実に入れてください。**

フレームが変形して、事故の原因となります。



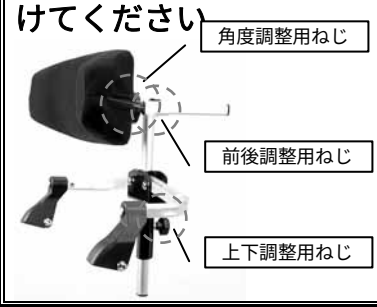


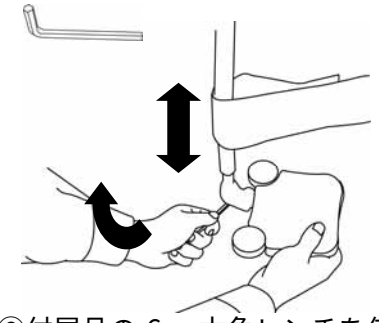
⑥背クッション･座クッションを取り付けます。(出荷時には取り付けられていません。)

⑦ヘッドサポートの枕を差し込んでノブねじを締め付けます。

**⚠注 意**

**枕取り付け時は、しっかりとノブねじを締め付けてください**



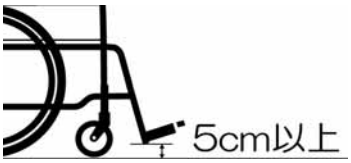



⑧付属品の 6 ㎜六角レンチを使って、ステップポストの先端のボルトを緩め、適当な高さに合わせた後、ボルトを完全に締めてください。

**⚠警 告**

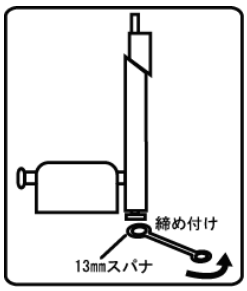
**●ステップポストの高さは地面より 5 センチ以上でご使用ください。**

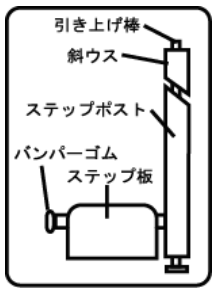
低すぎると凸凹路面や障害物にステップ板(フットサポート)があたり、転倒する恐れがあります。




**●ステップセット先端六角ボルト部分をスパナでしっかりと締め付けてください。**

締めることにより斜ウスがズレてステップセットが固定されます。
締め付けが弱いとステップセットが外れる恐れがあります。しっかりと固定されている事を確認してご使用ください。

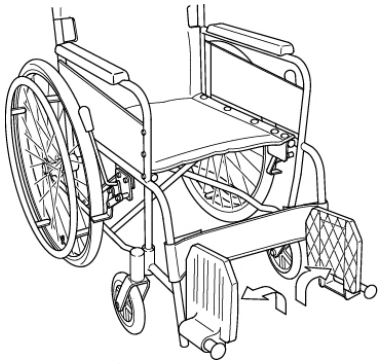



**●下図①のようにステップセットを固定してください。**

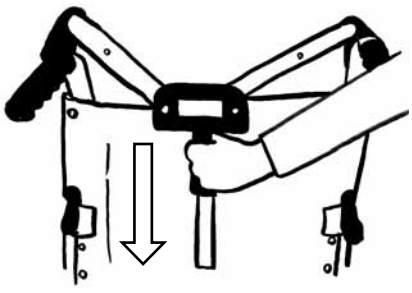
※車いすを折りたたむ時は下図②のようにステップ板を跳ね上げてください。
※下図③,⑤のようにステップセットを取り付けると車いすを折りたたむときに干渉し正しく折りたためないため(④,⑥)、フレームが歪み車いすに悪影響を及ぼす場合があります。また、前輪キャスタに干渉しキャスタが回転しにくくなる場合があります。

## 車いすのたたみ方

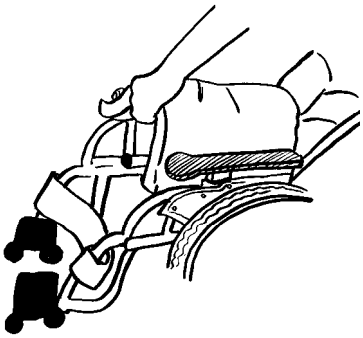


①駐車ブレーキをかけ、ステップ板(フットサポート)を閉じるように上方へ（矢印の方向へ）跳ね上げます。

②ヘッドサポートの枕を抜き取ります。



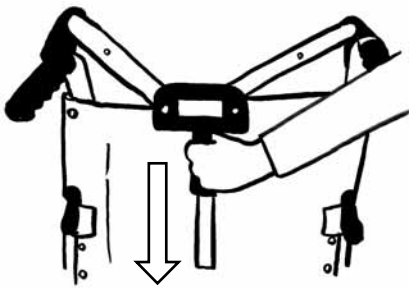
③ヘッドサポートの縦パイプを下に押し下げます。



④座シートの前方と後方の中央部を同時に持ち上げます。

**⚠警告**

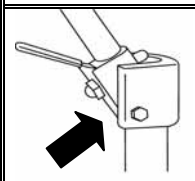
**折りたたむ際に、押手を持って左右から押し縮めないで下さい。**
フレームの破損の原因となります。



⑤ヘッドサポートの縦パイプをさらに下に押し下げます。

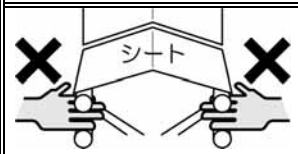
⑥押手(手押しハンドルグリップ)を身体の一部で支えながら、背折れ金具のレバーを左右同時に後方へ引き、押手(手押しハンドルグリップ)を倒します。

**⚠注意**



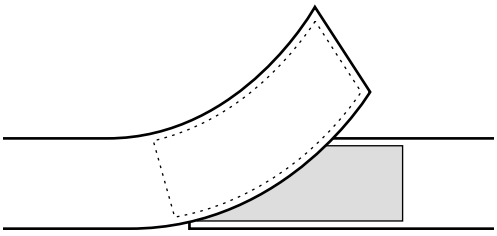
**矢印部分に手や指を置かないでください。**
挟まってケガをする恐れがあります。

**⚠注意**

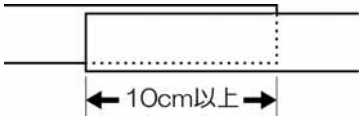



**シート(クロス)パイプの横や下に手や指を置かないでください。**
挟まってケガをする恐れがあります。

# 6.シートベルトの取り扱い方法



車いすに深く腰掛け、面ファスナーの接着部分を１０ｃｍ以上重ね合わせてしっかりと留めてください。




## ⚠注 意

**●シートから落ちるおそれがあるので必ずシートベルトを使用してください。**

段差などで不意に衝撃などを受けると身体が投げ出される場合があり危険です。また、シートベルトを外したまま移動するとベルトが車輪にからまるなど危険です。

**●面ファスナーに糸くず･汚れなどがついたときは取り除くか、シートベルトを交換してください。**

接着力が弱まり、事故の原因となります。

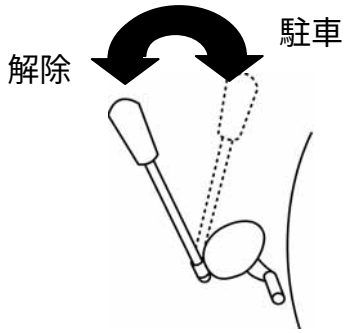
**※面ファスナーの接着力が弱くなった場合、シートベルトの交換が必要です。**

## ★転倒防止に十分配慮してください。

乗車・降車・移乗の際には不安定になりやすいため、転倒しやすくなります。
転倒しないよう、
・転倒防止金具(オプション) をご利用いただく
・車いすの後方を人が支える
・車いすの後方をベッドや壁に押し付ける
・手すりを利用する
などの方法で十分配慮してください。

# 7.ブレーキの取り扱い方法

## ★駐車ブレーキ




ブレーキレバーを後方に引くとロックし、レバーを前方に倒すと解除されます。

※車いすに乗り降りする際、一時停止する際は、必ず駐車ブレーキをかけて車いすが固定されていることを確認してください。

**⚠注 意**

**●車いすに乗り降りする際、一時停止する際は、必ず駐車ブレーキをかけて車いすが固定されていることを確認してください。**

**●後輪の空気圧にご注意ください。**

空気入タイヤ仕様の車いすをご使用の場合、空気圧が低すぎるとブレーキの効きが悪くなります。目安として、タイヤを手で押してもやや硬い程度（軟式野球ボール程度の硬さ）に空気を入れてください。

**●傾斜地や平坦でないところでは駐車しないでください。**

傾斜地や滑りやすい床面では駐車ブレーキをかけても車いすが動く場合があり、大変危険です。

**●駐車ブレーキのレバーは作動方向以外に力を加えないでください。**

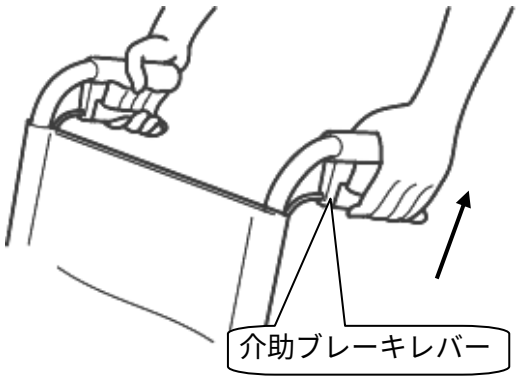
また、必要以上に力を加えないでください。ブレーキが変形・破損する恐れがあります。

**●駐車ブレーキは必ず手で操作してください。**

足などで操作するとブレーキが破損する恐れがあります。

## ★介助ブレーキ（バンド式）

走行中や下り坂での制動ブレーキとしてご使用ください。




ブレーキレバーを握ると制動ブレーキがかかり、離すと解除します。

**⚠警 告**

**●ブレーキの効き目が強すぎたり弱すぎるときは、すぐに販売店にご相談ください。**

**●ブレーキワイヤーは１年に１度、定期的に交換してください。**

**●ブレーキレバーは介助者の方が必ず両方同時に掛けてください。**

**●坂道を下るときは後ろ向きで走行してください。**

坂道を前向きで下ると乗っている人が前へずり落ちる、前へ倒れる、スピードが出やすいなど、非常に不安定になり危険です。また、介助者がバランスを失った時も危険です。

# 8.肘掛けの取り扱い方法

## ★高さを調整するとき

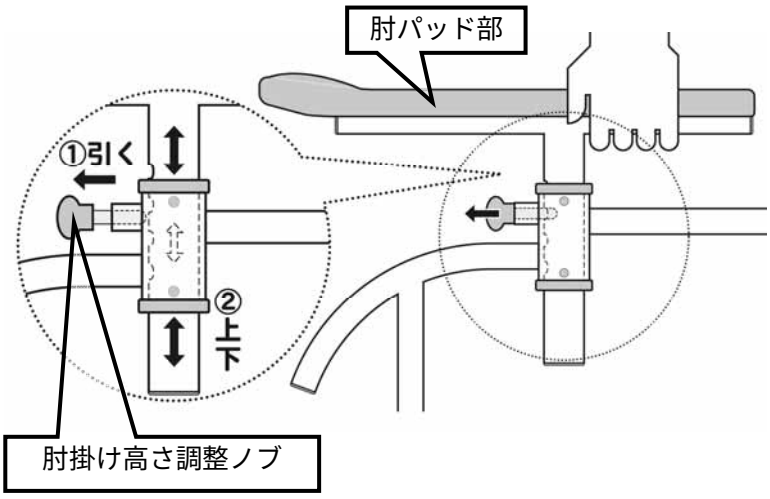
肘掛け(アームサポート)の高さを 20～26cm、4 段階で調整できます。

①駐車ブレーキをかけます。

②肘掛け高さ調整ノブを前方に引きます。

③肘掛け高さ調整ノブを引いたまま、肘パッド部を持って上下させます。

④お好みの高さで肘掛け高さ調整ノブから手を離します。
※調整ノブがしっかりと収まっていることを確認してください。




肘掛け高さは 20、22、24、26cm の４段階で調整できます。
（後ろ車輪が 22 インチ、座面高さが前座高 405mm(LO/低床)の場合は、220・240・260 の３段階となります。）

### ⚠警 告

**●調整は必ず駐車ブレーキをかけて行ってください。**
調整操作中、車体が動く場合があり、危険です。

**●調整後は肘掛けがしっかりと固定されていることをご確認ください。**
調整ピンが調整穴に確実に収まっていないと、体重をかけたとき急に肘掛けが下がるなどの危険があります。

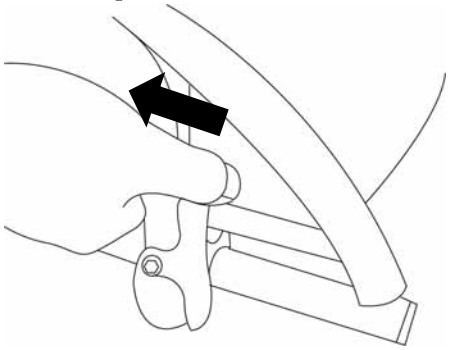
### ⚠注 意

**●肘掛けを下げるとき、手や指、衣服等を挟まないように注意してください。**

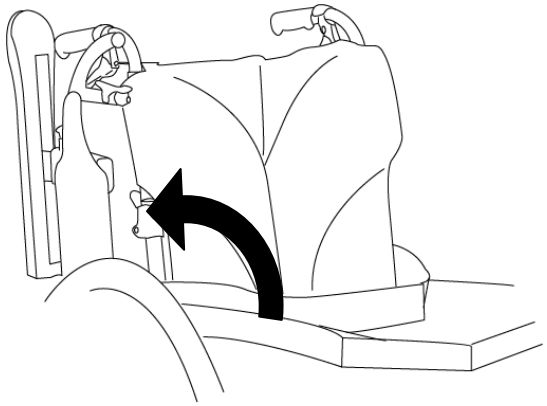
### ★跳ね上げるとき

肘掛けを跳ね上げるとベッドなどへ移乗しやすくなります。

[跳ね上げる]

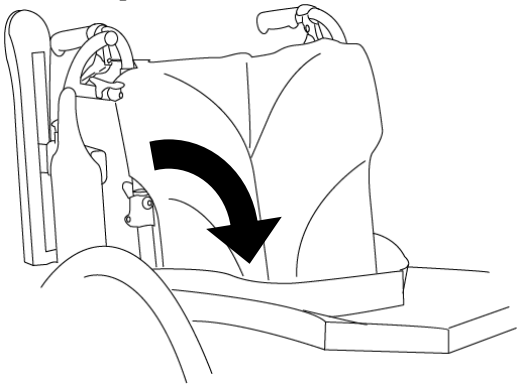


①レバーを上図のようにつまみ、ロックを解除します。

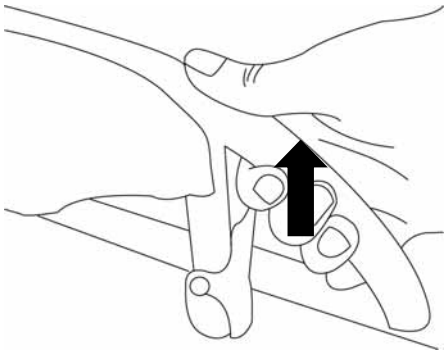


②肘掛けを矢印の方向に跳ね上げます。

[元に戻す]



①肘掛けを矢印の方向に降ろし、一番下まで押し下げます。



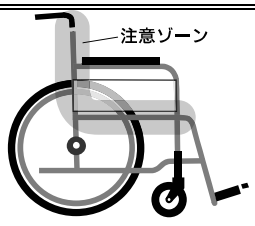
②一度上向きに引張り、確実にロックされていることを確認してください。

**⚠注 意**

**●肘掛けを跳ね上げたり、戻す際には、フレームとの隙間や車輪との隙間、ブレーキレバーとの隙間、跳ね上げ金具等で手や衣服を挟まないようにご注意ください。**

**・フレームとの隙間　・介助ブレーキレバーとの隙間**

**・車輪との隙間　・駐車ブレーキとの隙間　・跳ね上げ金具**




**●肘掛けを跳ね上げたままの状態で使用しないでください。**

転倒など、思わぬ事故の原因となります。

**●背もたれを折りたたんだ状態で、跳ね上げ操作をしないでください。**

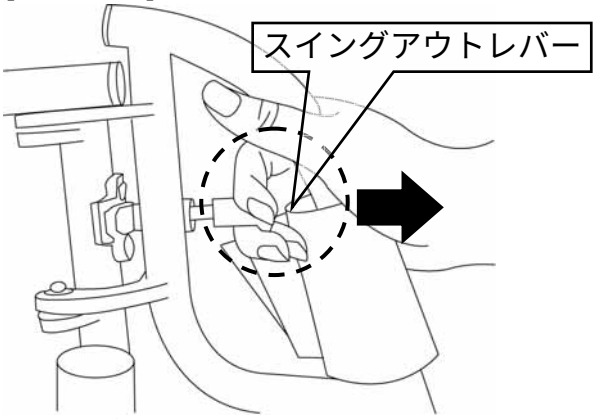
背折れ金具を破損する恐れがあります。

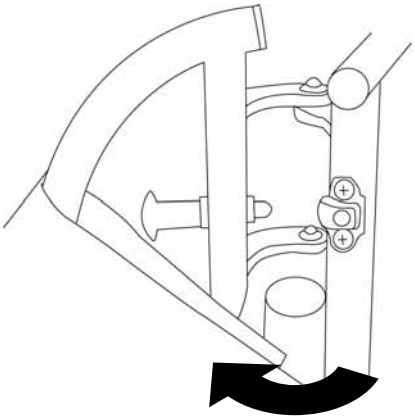
**●肘掛けに腕を載せたまま、肘掛けを跳ね上げないでください。**

## 9.脚部の取り扱い方法

## ★スイングアウトするとき

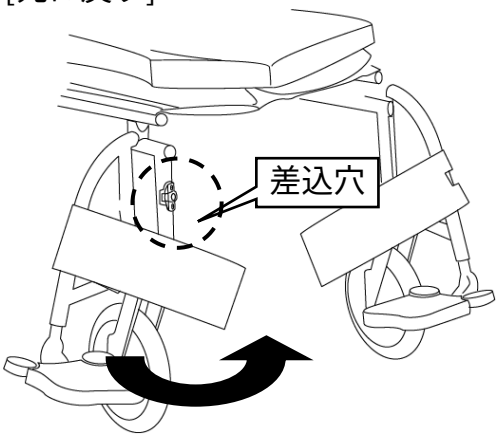
[外に開く]

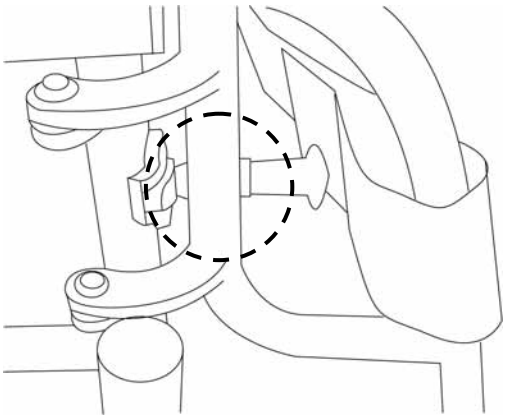


①駐車ブレーキをかけます。
②足ベルト中央部の面ファスナーを外します。
③スイングアウトレバーを引きながら、脚部を外側に廻します。

[元に戻す]



①駐車ブレーキをかけます。
②脚部を内側に廻します。
③このとき、スイングアウトレバーが固定されてることを確認してください。
④足ベルト中央部の面ファスナーをしっかりと貼り合わせます。

### ⚠ 注 意

**●スイングアウトや脱着の操作をする際には、脚部や金具等で手や衣服をはさまないようにご注意ください。**

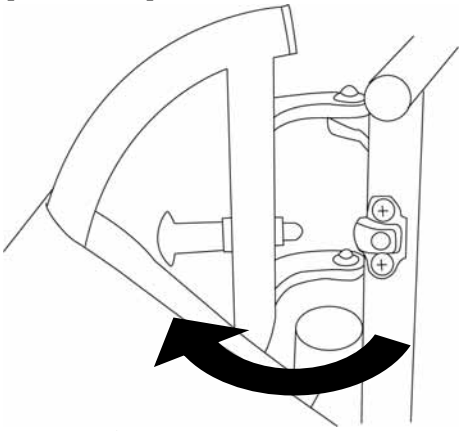
**●スイングアウトや脱着の操作をする際には必ず駐車ブレーキがかかっていることを確認してください。**
急に車いすが動き事故の原因になりかねません。

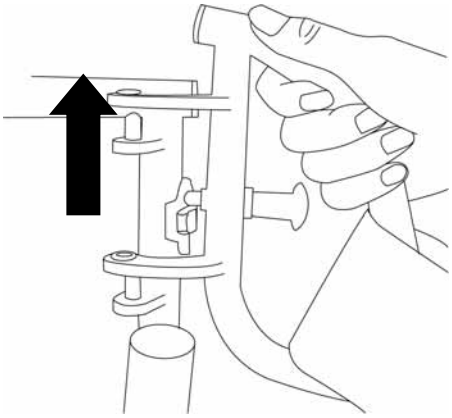
**●車いすに乗り降りの際は、決してステップ板の上に乗らないでください。**
車いすごと転倒し大変危険です。

**●車いすの乗り降りや移乗など車いすが不安定になりやすいときには、必ず２名以上の介助者が付き添ってください。**

## ★脱着するとき

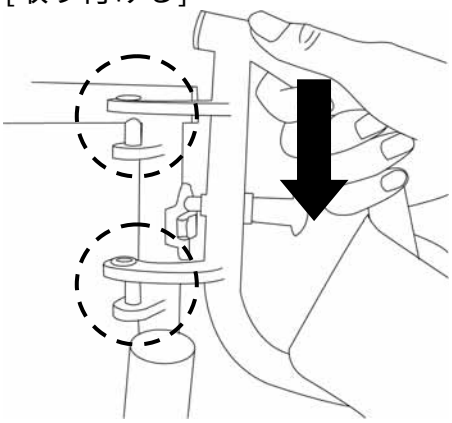
[外に開く]

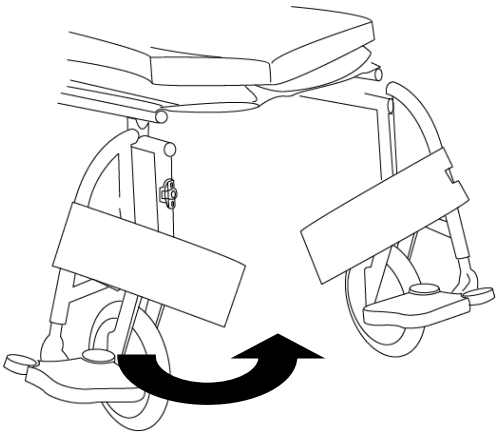




①駐車ブレーキをかけます。
②足ベルト中央部の面ファスナーを外します。
③レバーを引きながら脚部を外側に廻します。
④外側に廻した状態で脚部を上に引き抜きます。

[取り付ける]





①駐車ブレーキをかけます。
②外側に廻した状態で脚部を差し込みます。
③脚部を内側に廻します。
④このとき、スイングアウトレバーが固定されてることを確認してください。
⑤足ベルト中央部の面ファスナーをしっかりと貼り合わせます。

### ⚠注 意

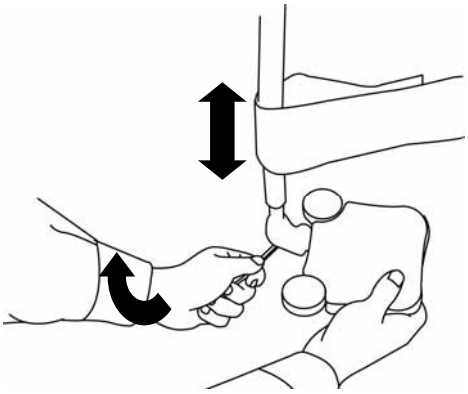
**●車いすを持ち上げる場合、駐車ブレーキをかけ固定されているパイプをしっかり支えてください。**

※肘掛けを持たないでください。
※脚部をもたないでくさい。
※背シートを持たないでください。
これらの箇所を持ち上げると、脚部や肘掛け等が車いすから外れるなど、大変危険です。

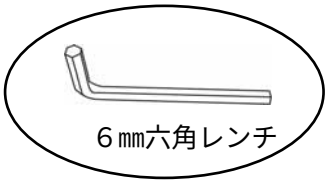
**※利用者が乗ったまま持ち上げる場合は、シートベルトをしっかりと締め、３人以上でフレーム前下部とティッピングレバーを持ってしっかりと支えてください。利用者の身体の一部を持たないでください。**

# 10.ステップ板の調整方法

## ★ステップ板の高さ調整方法



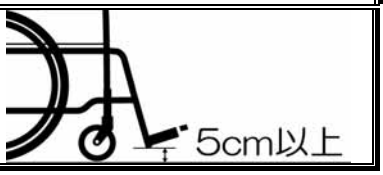
付属品の 6 ㎜六角レンチを使って、ステップポストの先端のボルトを緩め、適当な高さに合わせた後、ボルトを完全に締めてください。



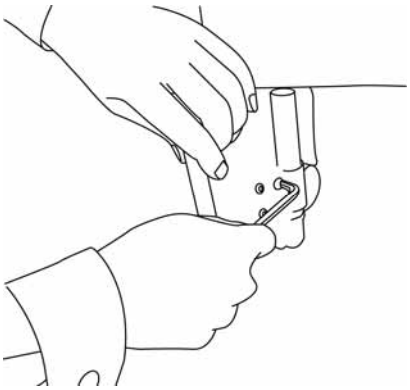

**⚠警 告**

**●ステップポストの高さは地面より 5 センチ以上でご使用ください。**

低すぎると凸凹路面や障害物にステップ板(フットサポート)があたり、転倒する恐れがあります。

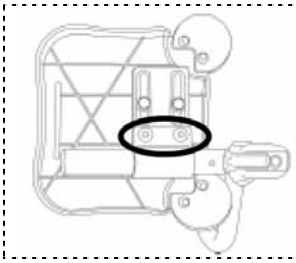



## ★ステップ板の角度･左右位置調整方法



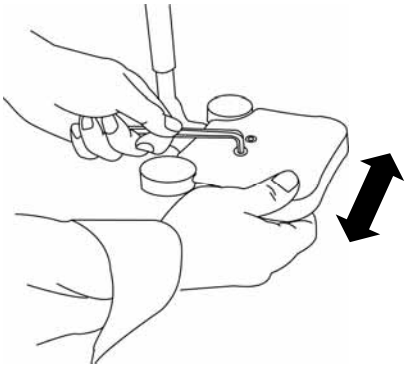
付属品の 4 ㎜六角レンチを使って、ステップ板の裏側のボルトを緩め、適当な高さに合わせた後、ボルトを完全に締めてください。

**※この際、しっかりとボルトを締めてください。緩むと事故の原因になります。**



①右図のボルト2本を緩めます。
②キャスター、地面との干渉に注意しながら角度を調整します。
③ボルト 2 本を締め、ステップ板を固定します。

## ★ステップ板の角度･左右位置調整方法



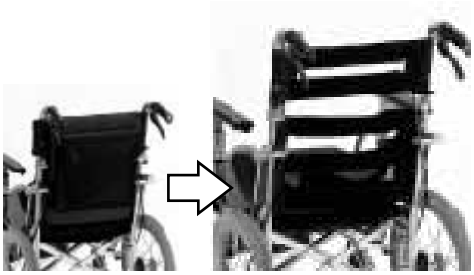
付属品の 4 ㎜六角レンチを使って、ステップ板の表側のボルトを緩め、適当な位置に合わせた後、ボルトを完全に締めてください。

**※この際、しっかりとボルトを締めてください。緩むと事故の原因になります。**

①右図のボルト2本を緩めます。
②キャスターとの干渉に注意しながら前後に調整します。
③ボルト2本を締め、ステップ板を固定します。

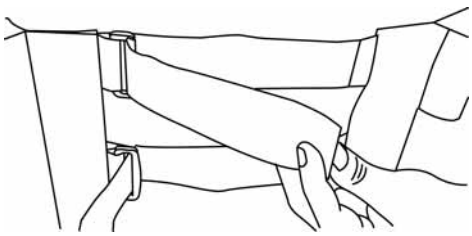
# 11.背シートの調整方法

この車いすの背ベースシートは利用者の方の体型に合わせて調整できます。一番楽な姿勢が保持できるように調整してください。

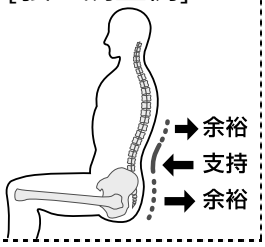


①背クッションを取り外します。

座幅 44cm へ調整される場合は、背ベースシートの一番下のベルトに付属の延長ベルトを取り付けてください。



[張り調整例]

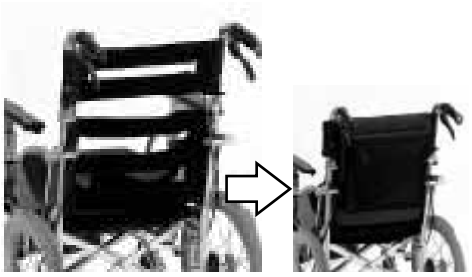



**⚠注 意**

**利用者が車いすに乗っている状態では、全ての面ファスナーを一度に外さないでください。**

転倒する恐れがあり、大変危険です。

②調整ベルトの面ファスナーを外し、適当な長さに合わせます。
（部位によって張り具合を調整してください。）



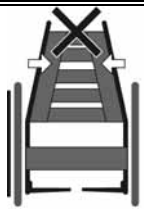
③背クッションを取り付けます。

**⚠注 意**

**●ベースシートを調製する際、強く張りすぎないようご注意ください。**

※座ベースシートを強く張りすぎるとシートパイプ受けにシートパイプが収まらなくなる場合があります。

※背ベースシートを強く張りすぎると背パイプが中央に寄ってしまい、背もたれ幅が狭くなってしまいます。また、フレームの変形の原因にもなります。



**●背クッションはポケットが付いている方が後ろ側です。**

表裏･前後の向きにご注意ください。

**●面ファスナーに糸くず･汚れなどがついたときは取り除くか、安全ベルトを交換してください。**

手入れをしないと接着力が弱まり、事故の原因となります。

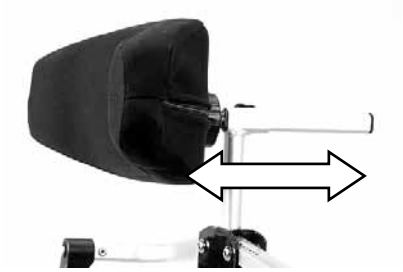
**※面ファスナーの接着力が弱くなった場合、安全ベルトの交換が必要です。**

# 12.ヘッドサポートの調整方法

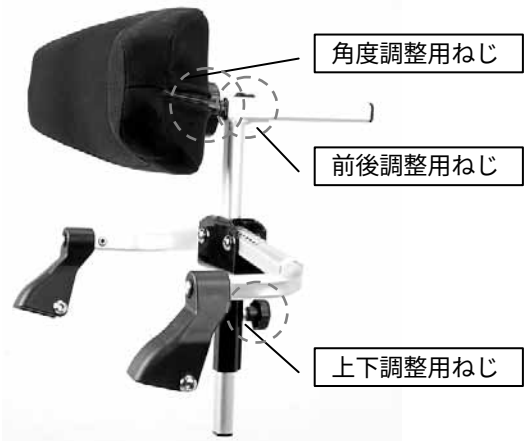
この商品は、スーパーヘッドを標準装備しております。

**枕が不要な場合は取り外してご使用いただけますが、取付金具は製品から取り外さないでください。**

**★枕の前後位置調整**



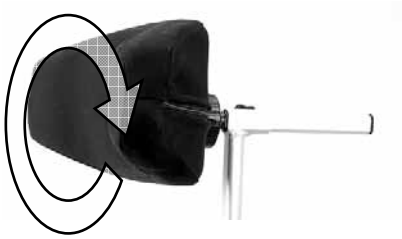
前後調整用ねじを緩め、適当な位置に枕を合わせ、ねじを締め付けます。




**★枕の上下位置調整**

上下調整用ねじを緩め、適当な位置に枕を合わせ、ねじを締め付けます。

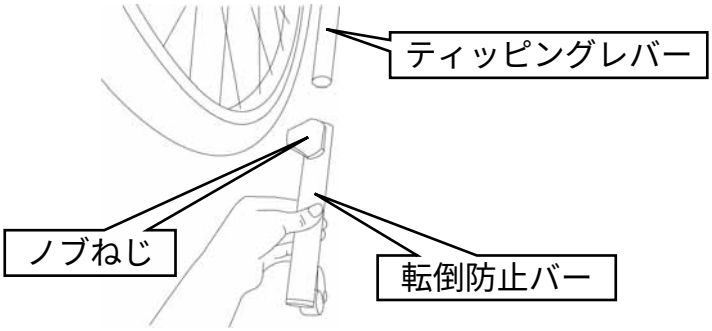
**★枕の角度調整**



角度調整用ねじを緩め、適当な位置に枕を合わせ、ねじを締め付けます。

# 13.転倒防止バーの取り付け方法

転倒防止バーは中床/低床用、超低床用をご用意しております。ご注文時の座面高さに合わせた転倒防止バーを同梱しております。




①ティッピングレバーに付属の転倒防止を差し込んでください。

②キャスタが地面と垂直になるよう取り付け、ノブねじをしっかりと締めて固定してください。

**⚠注 意**

**●転倒防止バーはティッピングレバーの付け根まで差し込んでください。**

差し込みが浅いと、転倒防止バーが地面に当たったときにフレームや転倒防止バーが損傷する恐れがあります。

# 14.その他各部の調整

この車いすには、ご利用者の体型や症状に合わせて以下の調整機能があります。
調整については専門業者に作業をお願いしてください。

**●座幅**

座幅を 5 段階(36･38･40･42･44cm)で調整できます。

**●シート奥行き調整**

座面の奥行きを３段階(38･40･42cm)で調整できます。

**●背角度調整**

背もたれ角度を３段階(95･102･109 度)で調整できます。

**●押手高さ調整**

押手高さを５段階で調整できます。

**●座面高さ（前座高･後座高）**

後輪 22in 仕様：２段階(前座高 40.5･43cm)で調整できます。
後輪 20in 仕様：３段階(前座高 38･40.5･43cm)で調整できます。
後輪 16in 仕様：３段階(前座高 38･40.5･43cm)で調整できます。

**●自走･介助組み替え**

自走用(後輪 22･20in)･介助用(後輪 16in)で組み替えできます。

| ⚠ 注 意 |
| --- |
| **●調整については必ず専門業者に作業をお願いしてください。**<br>**●調整の際は、ネジがしっかり締まっているか、ご確認ください。** |

# 15.お手入れの方法

**★金属部分（フレーム、車輪等）**

フレームなどの金属部は、乾いた布でよく汚れを落として、自動車用のワックスをかけ、乾いた布で拭き取ってください。スポークの通常のお手入れは、水を用いずに汚れを落とす程度で十分です。凹凸のある部分の汚れ、頑固にこびり着いた汚れは、市販の中性洗剤を用いてください。

**★樹脂（プラスチック）部**

樹脂（プラスチック）部品には、市販の中性洗剤をご使用ください。

**★クッション、シート類**

シート部分をぬるま湯で拭き、きれいな水で仕上げ拭きを行い、乾かしてください。市販されている防水加工用のスプレーなどを用いての防水加工をお勧めします。防水加工を行う場合は、ご使用になる防水加工用商品の説明書をよくお読みください。

**＜汚れがひどいとき＞**

- ●汚れがとれにくい場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取り、その後、水で濡らした布で洗剤を拭き取ってください。
- ●しみは、スポンジまたは柔らかいブラシを用いて取り除いてください。
- ●洗う場合は、ぬるま湯で手洗いしてください。洗濯機、乾燥機の使用はお避けください。
- ●クッション表面に面ファスナー（オス）が接触しないようにしてください。（クッション生地のほつれ、けばだちの原因となります。）

**⚠注 意**

**●熱湯やオゾンで洗浄しないでください。**
故障・変質・変色の原因となります。

**●中性洗剤を使用してください。**
変質・変色・傷みの原因となります。

**●シンナーやベンジンなどの揮発性のものは使用しないでください。**
変質・変色・傷みの原因となります。

**●たわし、みがき粉および硬いブラシは使用しないでください。**
傷みの原因となります。

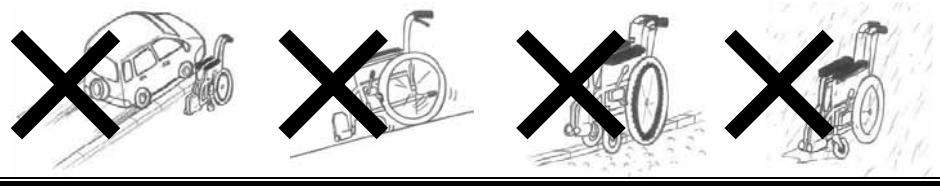
# 16.保管についてのお願い

車いすは、お手入れ後、安全な場所に保管してください。

**⚠注 意**

**●下記のようなところに車いすや部品を放置しないでください。**

- **・車道に近いところ**
- **・人通りのあるところ**
- **・坂道**
- **・路面に段差や凸凹のあるところ**
- **・湿気の多いところ**
- **・暑い日や寒い日の戸外**
- **・海沿いの屋外(潮風の当たるところ)**
- **・雨、風のあたる場所**
- **・ほこりの多い場所**
- **・非常口、消火器、消火栓の前**
- **・直射日光の当たる場所（車内も含む）**
- **・ストーブなど火気を使用し高温になる場所**
- **・子供がいたずらをする恐れのある場所**



# 17.車いすの保守・点検

## 1 ヶ月に一度は安全点検を行ってください!!

### ★タイヤに空気は十分入っていますか？

空気入タイヤをご使用の場合は、空気圧にご注意ください。
タイヤの性質上空気は自然と減っていくので 1 ヶ月に１回は空気を入れてください。
適正空気圧は、タイヤの側面に記載されています。(目安として、タイヤを手で押してもやや硬い(軟式野球ボール程度の硬さ)に空気を入れてください。)
空気圧が低すぎると駆動が重くなり、またブレーキの効きが悪くなります。高すぎるとクッション性が悪くなります。

### ★タイヤの溝は十分認識できますか？

タイヤの減りが激しいものはパンクの原因になったり走行性やブレーキの効きが悪くなるので交換が必要です。また、タイヤやキャスタのひび割れにもご注意ください。

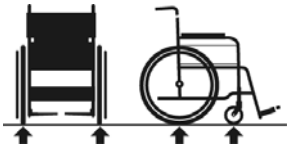
### ★駐車ブレーキはしっかり効きますか？

タイヤの空気圧が下がると駐車ブレーキの効きが弱くなります。
空気圧のチェックとともにブレーキの取付ネジの緩み、ブレーキ本体のガタなどがないかご確認ください。もし、異常がございましたら、直ちにご使用をお止め頂き、すぐにお買い上げの販売店までご連絡ください。

### ★変な音がしませんか?

変な音がする場合、どこでその音が発生しているかをご確認してください。ブレーキワイヤーが車輪に擦れている、ベアリング部の油分が不足しているなどの原因が考えられます。お買い上げの販売店までご連絡ください。

### ★四点接地していますか？



前輪二輪と後輪二輪が接地しているかご確認ください。
四点接地していない場合、フレームの歪みやネジの緩みが考えられます。直ちにお買い上げの販売店までご連絡ください。

### ★まっすぐ進みますか？

平地で車いすを左右均等な力で押してください。自然に曲ってしまう場合、どこかが歪んでいる可能性があります。お買い上げの販売店までご連絡ください。

### ★シートに破損やたるみ、傷みはありませんか？

湿気の影響を受けたり長時間続けてご使用になるとシートに破損・たるみが発生します。座り心地を損なわない姿勢が保ちにくくなりますので、たるみ・破損が著しい場合は交換をおすすめします。

### ★ネジの緩みはありませんか？

ガタがある場合は、ネジの緩みや脱落が考えられます。直ちにご使用を中止し、すぐにお買い上げの販売店までご連絡ください。

# 異常が見つかったらご使用を中止してください。

### ★きちんと折りたためますか？

折りたたみに異常がある場合、ネジの緩みや可動部分の油切れが考えられます。お買い上げの販売店までご連絡ください。

### ★車輪やキャスタはしっかり固定されていますか？

車輪を留めているボルト、キャスタを留めているボルトは緩んでいませんか？緩んでいると使用中突然車輪やキャスタが外れて転倒するなど大変危険です。お買い上げの販売店までご連絡ください。

### ★ハンドリムはしっかり固定されていますか？

ハンドリムにガタがある場合、取り付けネジの緩みが考えられます。お買い上げの販売店までご連絡ください。

### ★介助ブレーキはしっかり効きますか？

介助ブレーキがスムーズに作動すること、しっかりと効くことをご確認ください。異常がある場合は、お買い上げの販売店までご連絡ください。

### ★ブレーキワイヤーは切れていませんか？

ブレーキヤイヤーは切れていませんか？ブレーキが効かなかったり、事故の原因になります。安全のため、1 年に一度はワイヤーを交換してください。

### ★洗浄の際には、水、お湯または中性洗剤をご使用ください。

- 中性洗剤以外の洗剤を使用しないでください。
- シンナーやベンジン・アルコールなどの揮発性のものは使用しないでください。
- たわし、みがき粉および硬いブラシは使用しないでください。
- オゾン消毒はしないでください。ゴム材料の収縮などの原因になります。
  変質・変色・傷み・割れの原因となります。

## ★異常が見つかったらご使用を中止してください。

**⚠ 注 意**

**●スパナやドライバーなどの工具の使用にて締め付ける場合、薄手の手袋をご使用ください。**

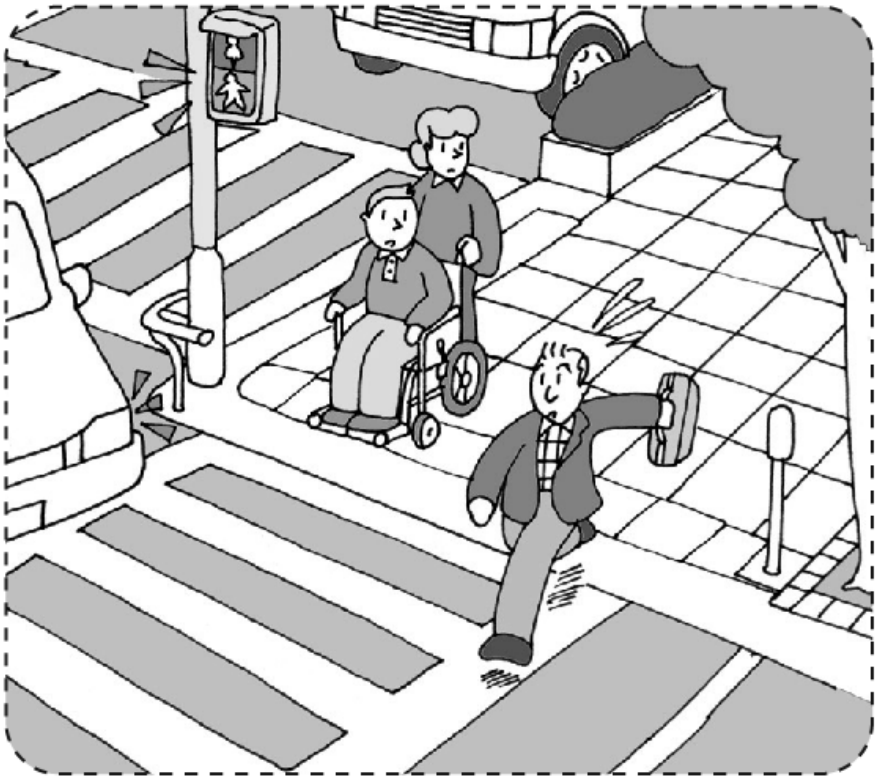
**●異常が見つかったら、直ちにご使用を中止してください。**

# 18.車いすの主な乗り方

**⚠ 警 告**

**●タイヤの空気が十分入っているか確認しましょう。**
**●下り坂は加速がつき危険です。いつでもブレーキがかけられるよう慎重に。**
**●いきなり公道に出るのは危険です。屋内や庭など安全な場所で練習しましょう。**
**●車道はできるだけ通らず、歩道や十分な幅のある路側帯を通りましょう。**

## 車いすは歩行者として取り扱われます。
## 歩行者としての交通ルールを守りましょう。



**●「自転車及び歩行者専用」、「歩行者専用」のマークのある**
**歩行者専用道路も通ることができます。**
**●信号機のある場所では、「青」が点滅中に横断するのは危険です。**
**「青」信号を待ちましょう。**

★焦らずゆとりを持った横断、走行を心掛けましょう。

**⚠ 注 意**

**●車いすは、自動車と同じ乗り物ですから、定期点検が必要です。**
長期の使用によって劣化が生じます。異常が発生した場合は、直ちに使用を中止してください。

## ★転倒防止に十分配慮してください。

（転倒防止金具(オプション)をご利用いただく、車いすの後方を支えるなどの方法があります。）

### ★移乗

車いすに乗る方を介助者がベッドなどから移す方法です。双方にとって安全で負担の少ないことが重要です。

介助者が片足を相手の膝の間に差し込んで、腰を支えながら立ち上がらせます。

介助者の膝で相手を支えながら、車いすの方へお尻を向けます。

ゆっくりと腰を下ろしてもらいます。

※「いち、にのさん」と声をかけながらおたがいに協力し合いましょう。

### ★外出

車いすの安全な使い方は、“ ゆっくり ”“ 確実に ” と “ 安全ベルト着用 ” が基本です。

#### [坂道]

＜上り坂＞

押す人は身体を少し前に倒して、押し戻されないよう、一歩ずつしっかりと押します

＜下り坂＞

坂を下るときはブレーキを軽く使いながら、後ろ向きに一歩ずつ下ります。

また、安全ベルトを必ずご利用ください。

#### [段差のある場所]

＜上がるとき＞

ティッピングレバーを踏んで前輪を上げて進み、続いて後輪を押し上げます。

＜下るとき＞

後ろ向きでまず後輪をおろし、ティッピングレバーを踏んで前輪を上げたまま後進し、ゆっくりと下ろします。

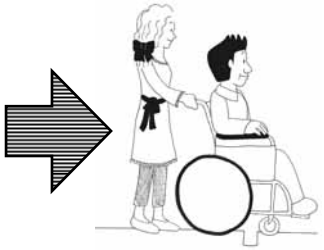
※階段では車いす全体を持ち上げてください。

#### [溝越え]

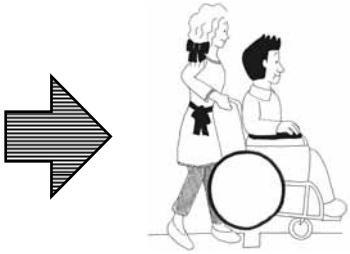
※予め溝の大きさを確認し安全に渡れる場合のみ実施してください。

①「キャスタ上げ」の要領でティッピングレバーを踏んで押手を押し下げ、キャスタを上げます。

※この時、必ず声をかけてから行ないます。



②キャスタを上げたまま前に進み、溝を越えた向こう側にキャスタをゆっくり下ろします。



③次に後輪を持ち上げて前に進み、溝を完全に越えたところでゆっくりと後輪を下ろします。

# 19.仕　様

**＜各部寸法＞**・・・・・・・・・・・・・・・記載の寸法や重量は設計値であり、実際の車体とは多少誤差がある場合があります。

| 品名・名称 | | 標準仕様・規格 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | **M（中床）** | **LO（低床）** | **SL（超低床）** |
| 座　　幅 | (mm) | 440・420・400・380・360 | | |
| 前座高 | (mm) | 435 | 410 | 385 |
| 後座高さ | (mm) | 400 | 375 | 350 |
| 脚部長さ | (mm) | 300～ | | |
| シート奥行き | (mm) | 380・400・420 | | |
| 背もたれ高さ | (mm) | 400 | | |
| 肘掛け高さ | (mm) | 200・220・240・260<br>（後ろ車輪が 22 インチ、座面高さが前座高 405mm(LO/低床)の場合は、220・240・260 の３段階となります。） | | |
| 全高 | (mm) | 1,030～ | 1,000～ | 980～ |
| (折りたたみ時) | (mm) | 640 | 620 | 600 |
| 使用者最大体重 | (kg) | 100 | | |

| | | **KA922** | **KA920** | **KA916** |
|---|---|---|---|---|
| 全幅 | (mm) | 600・620・640・660・680 | | 560・580・600・620・640 |
| (折りたたみ時) | (mm) | 460 | | |
| 全長 | (mm) | 1080～ | | |
| 重量 | (kg) | 19.3 | [前輪 7in]19.3<br>[前輪 6in]19.0 | 18.6 |

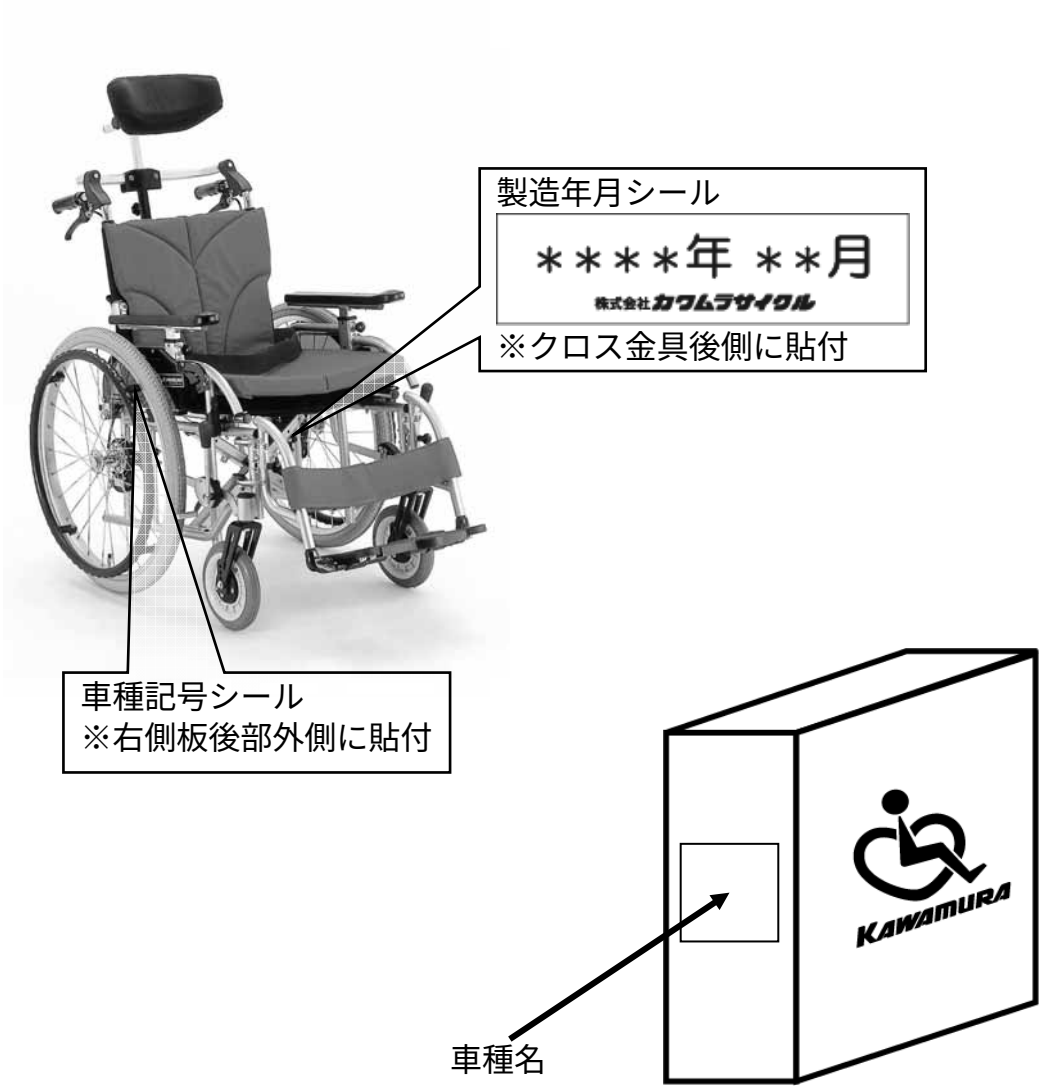
**＜各部仕様＞**・・・・・・・・・・・・・・・

# 20.製造記録

アフターサービスなどを的確に受けるため、車種･製造年月を記録しておいてください。

| | |
|---|---|
| 車　　種 | |
| 製　造　月 | 年　　月 |

＜シール貼付位置＞



# 21.保証

弊社の定める保証とは、正常な使用状態において故障が生じた場合に限り、無償にて修理を行うことをお約束するものです。

**★保証書**

この商品には保証書を別途添付しております。
返送用登録はがきに所定の事項を記入のうえ､商品購入後 1 ヶ月以内に弊社へご返送いただきご登録ください。
※ご登録がない場合は保証対象外となりますのでご注意ください。

**★保証期間**

お買い上げ日より 1 年間（消耗部品は含みません。）

**★保証期間後**

保証期間後はお買い上げの販売店にご相談ください。修理によって商品の機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理させていただきます。

**★消耗部品**

| | | | |
|---|---|---|---|
| ・前輪(車輪のみ) | ・背ベースシート | ・肘当てパッド | ・バンド式介助ブレーキ本体 |
| ・ベアリング | ・背クッション | ・ふくらはぎパッド | ・ドラム式介助ブレーキ本体 |
| ・タイヤ | ・座ベースシート | ・板バネ | ・ワイヤー |
| ・チューブ | ・座クッション | ・ガスダンパー | ・ステップセット |
| ・虫ゴム | ・足ベルト | ・メカニカルロック | ・後輪(車輪のみ) |

**★保証の適用除外となる場合**

(a) ご使用による消耗および取扱不注意による破損
例）タイヤの磨耗およびパンク、ワイヤー、シート、ステップ板の破損等
(b) 地震、台風、水害などの天災および事故、火災による焼失・破損
(c) お取扱の不注意、操作未熟ならびに故意または過失など誤って使用されたことによる破損
(d) 保全上の不備および弊社以外で行った修理や改造等による破損
(e) 弊社が指定する純正部品以外のパーツ等の使用により発生した破損
(f) 一般に車いすが走行しない場所、または特殊な状態での使用による破損
(g) 製品本来の使用目的にそぐわない使用による故障および破損
(h) 取扱説明書に従わずに使用して生じた故障および破損
(i) 取扱説明書に禁じられてる使用方法によって生じた故障
(j) ご購入後 1 ヶ月以内に返送用登録はがきをご返送いただいていない場合
(k) 日本国外でご使用の場合

**★修理のご依頼**

異常がある場合は、ご使用を中止しお買い上げの販売店にご依頼ください。

**★本製品を他人に譲る場合**

この製品を他の方にお譲りになる時は、必ず本書もあわせてお渡しください。

**★一度使用したものは、原則として製品のお取り替えはできません。**

**地球の環境保護のため､廃棄するときはそのまま放置しないで各自治体の取り決めにしたがってください。**

メ　モ

株式会社カワムラサイクル

| | | | |
|---|---|---|---|
| **■本社** | 〒651-2411 | 兵庫県神戸市西区上新地 3-9-1 | TEL078-969-2800 |
| **■本店サービスセンター** | 〒651-2411 | 兵庫県神戸市西区上新地 3-9-1 | TEL078-969-2820 |
| **■東京サービスセンター** | 〒110-0013 | 東京都台東区入谷 1-8-3 | TEL03-3874-3511 |
| **■横浜サービスセンター** | 〒220-0073 | 横浜市西区岡野 2-12-9 | TEL045-290-9585 |
| **■名古屋サービスセンター** | 〒487-0027 | 愛知県春日井市松本町１-３-11 | TEL0568-52-4800 |
| **■大阪サービスセンター** | 〒564-0044 | 大阪府吹田市南金田２-20-10 | TEL06-6190-8488 |
| **■福岡サービスセンター** | 〒819-0055 | 福岡市西区生の松原１-18-3 | TEL092-882-4722 |

**■神戸工場　■神戸第二工場　■いなみの工場　■メンテナンスセンター**

※本書に記載の意匠、仕様および部品は性能向上のために一部予告なく変更することがあります。

修理・お手入れ・お取扱いなどのご相談は、まずお買い求めの販売店へお申し付けください。
・転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、上記へ。

2012.04